

### P-122 当院での認知症ケア委員会における薬剤師の関わり

○河原香織 1) 2)、篠原瑠璃 1) 2)、塩田 恵 1)、相生勇作 1)、吉田直恵 1)、熊谷はじめ 2)、間木野泰祥 2)、乾 由明 2)  
(西宮病院 薬剤部 1) 認知症ケア委員会 2))

#### 【はじめに】

身体疾患のために入院した認知症患者に対する対応力とケアの質向上を図るため、当院では、平成28年6月に医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、MSW、理学療法士からなる認知症 ケア委員会を創設した。

創設当初から薬剤師は参加しており、認知症ケア委員会における薬剤師の 関わりについて報告する。

#### 【方法】

鎮静を目的とした薬物の適正使用を含む「認知症患者におけるBPSD及びせん妄の治療薬についての手順書」(以下、手順書)を作成し、認知症ケアマニュアルに掲載した。また、定期的実施している認知症ケアラウンドに参加し薬物療法の提案、情報提供を行った。

#### 【結果】

手順書には、BPSDの症状別に当院採用薬の中で使用できる薬剤を明記し、副作用等の使用上注意すべき事項についても記載した。また、せん妄の治療薬についても当院採用薬の用法用量、注意点等を記載した。さらに、せん妄をきたす薬剤の一覧を添付し薬剤性のせん妄についての情報提供を行った。手順書は電子カルテからも閲覧が可能である(図1)。認知症ケアラウンドでは、手順書をもとにせん妄の際のリスペリドンの使用方法や睡眠導入剤の変更について提案し、薬剤師の特徴や注意点に関する情報提供を行った。認知症ケアラウンドの内容を病棟担当薬剤師と共有し服薬指導にも活かすことができた(図2)。

#### 【「認知症患者におけるBPSD及びせん妄の治療薬についての手順書」の作成】

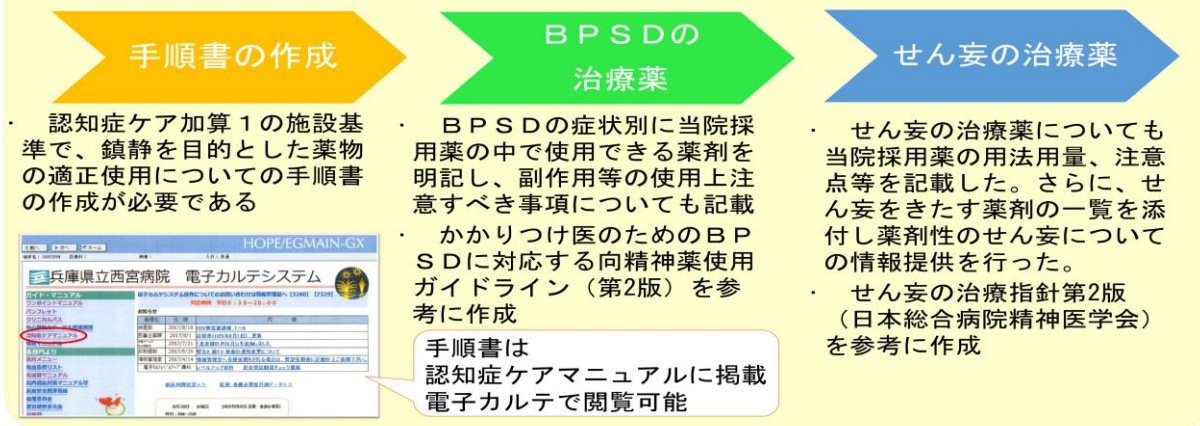
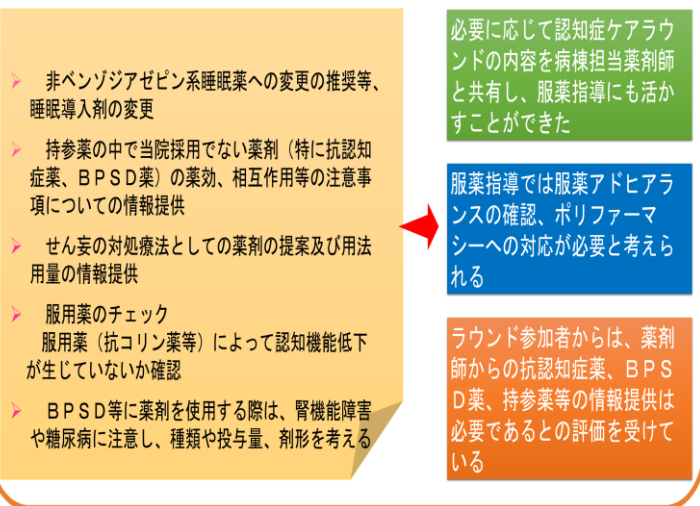


図1 「認知症患者におけるBPSD及びせん妄の治療薬についての手順書」の作成

#### 【認知症ケアラウンド】

期 間	平成28年12月～平成29年8月	開催日時	毎週月曜日14時から
件 数	15件		
年 齢	66歳～98歳 (60代2名、70代4名、80代7名、90代2名)		



#### 【結論】

入院による環境の急激な変化により、せん妄やBPSDが増悪することがあり、それに対して身体拘束や抗精神病薬投与による解決を図ろうとすることがある。抗精神病薬や睡眠導入薬は副作用も多く、必要最小限の使用にとどめることが推奨されている。薬剤師の果たす役割は大きく、抗精神病薬等の適正使用を推進させることで、認知症ケアの質的向上に繋がる。

図2 認知症ケアラウンド